

①取り組み

課題	テーマ	解決手法	実際の取り組み
<p>●上下流の課題</p>	<p>生き物の棲みやすい川づくり（上下流問題）</p>	<p>本川モデル</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題と解決の方向性の検討</li> <li>個別課題の取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>（平成22年）矢作川をフィールドとして研究、活動する専門家や団体を講師とした勉強会を開催した。</li> <li>（平成23年）矢作川の源流から海までの全ての視察するバスツアーを開催した。</li> <li>（平成24～27年）矢作川河川整備計画、豊田市矢作川河川環境活性化プランなど矢作川に関する河川整備事業、整備計画に関する勉強会を開催した。</li> <li>（平成26年）久澄橋下流の河道内の地形状況について、大同大学、国交省による現地測量を実施した。</li> <li>（平成23～平成28年）白浜工区の河道掘削箇所を題材とした河川事業の在り方について意見交換を行った。また、大同大学による洪水規模に応じたモニタリングが行われ、WGにおいて情報共有が図られた。</li> <li>（平成26年）矢作川漁協との意見交換が実現し、現状と課題の情報共有が進展した。</li> <li>（平成24～25年）矢作川の土砂問題に関する勉強会を開始し、土砂管理検討委員会に向けての提案事項となる「矢作川の河川環境の方向性」についてとりまとめた。</li> <li>（平成27年）小渋ダムの土砂バイパスを視察し、総合土砂管理の知見を深めるとともに、土砂管理検討委員会の進め方について意見交換を行った。</li> <li>（平成26～29年）加茂川の段差改善を目的として、魚道の設置を検討し、自然石による棚田式魚道を設置された。WGではその後の生き物の生息状況について情報共有を行っている。</li> <li>（平成29年～平成30年）矢作川研究所がアユの生息環境の復元を目的として取り組んでいる阿摺ダム下流の実験状況（河床環境の改善）について現地視察を行った。また、同場所の生物相について愛知工業大学の研究結果を周知した。</li> </ul>
	<p>生き物の棲みやすい川づくり（上下流問題）</p>	<p>家下川モデル</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題と解決の方向性の検討</li> <li>個別課題の取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>（平成25～平成27年）水位やゲート敷高等の高さなどの移動阻害箇所の測量及び現地調査を実施するとともに、各施設の管理団体を整理し、段差の解消について検討を実施した。</li> <li>（平成23～25年）「草の植え付け」「水田魚道」「越冬マス」「ブロック水制・堰（越冬場所）」などの設置効果について情報共有した。</li> <li>（平成26～平成29年）家下川湛水防除事業（上郷2期地区）の概略設計の検討状況について意見交換を行い、排水機場周辺の浚渫など生き物の棲みかか配慮した施工が行われた。また、その後の状況について情報共有を行った。</li> </ul>
<p>●地先の課題</p>	<p>地先の課題</p>	<p>地先モデル：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>（仮）専門家リストの作成</li> <li>個別課題の取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>（平成24年）家下川合流点から矢作古川分派点と乙川の現地調査を行い、活動団体や管理者が抱える課題や活動内容について、情報共有した。</li> <li>（平成25～平成26年）活動団体へのヒアリングを継続するとともに、活動団体を掘り起こし、広く活動団体の状況を把握するため、新たにアンケート調査を実施した。</li> <li>（平成25～平成27年）活動団体リストを概ねまとめ終わり、活動団体マップの作成に着手した。</li> <li>（平成26年）専門家リストのたたき台を作成することができた。</li> <li>（平成29年～平成30年）流域圏担い手づくり事例集をWGで取り上げ、協働して取り組むことになった。取材先の選定にあたっては、過去に作成した専門家リストを活用した。</li> </ul>

②成果（第10回川部会まとめの会 意見交換集約）

テーマ	活動	できたこと	もう少しでできたこと	できなかったこと
<p>生き物の棲みやすい川づくり（上下流問題） 多様な物理環境と生物生態環境の創出</p>	<p>本川モデル</p>	<p>勉強会や現地観察調査の実施</p> <p>河川改修による水域への影響を考える意識の芽生え</p> <p>矢作ダムの効果影響の現地視察の実施</p> <p>河川変動シミュレーション手法の理解</p> <p>水質調査や水門観測の実施と発表</p> <p>白浜工区でのヤナギ・オオカナダモの調査</p> <p>総合土砂管理に関する勉強</p>	<p>各課題に対する川部会を主導となる活動</p> <p>生きものの棲みやすい川づくりに関する議論</p> <p>矢作川本川の各地点評価</p> <p>土砂に関する議論からの望ましい像の提案</p>	<p>流域の化学物質の移動についての議論（一部合同部会で実施）</p> <p>明治用水や中電との率直な意見交換</p> <p>農業・工業・生活用水についての議論</p> <p>水域外と水域の関連性の理解</p> <p>河川環境改善実験による改善策の作成</p> <p>川沿いを歩きながらの議論</p> <p>土砂管理に関する取り組みの具体化</p> <p>本川内の地点別評価</p>
	<p>家下川モデル</p>	<p>本川と支川の課題解決（加茂川の段差解消や家下川湛水防除事業に貢献）</p> <p>家下川を部会員で歩くことによる状況把握</p>	<p>懇談会が主体となる環境改善手法の具体化</p> <p>岩本川の小さな自然再生（市民主体による取り組み：新時代のモデル）</p>	<p>合流点の様子・支川の合流点の少し上流部分の形態評価</p> <p>家下川モデルとしての水系の河川情報の集積（生物多様性の保全・川利用）</p>
<p>課題（河川空間の利用・保全のあり方） 地域の人々と川との関係を中心とした、地先の</p>	<p>地先モデル</p>	<p>山部会と協働した成果（流域圏担い手づくり事例集）</p> <p>流域管理の勉強会に東京の学生・教師の参加</p> <p>豊田東高校の生徒との現地調査（白浜工区水質調査）</p> <p>小浜ダム・矢作ダムでのエクスカージョン実施</p> <p>市民団体、漁協、国交省などの関係者と話し合う場の提供</p>	<p>メンバーの拡大、市民の議論参加の拡大</p> <p>堤防の全川踏破</p> <p>県市の河川管理者、電力会社の参加</p>	<p>ごみの問題等の課題の解決に向けた市民への啓発</p> <p>矢作川への関心向上のための新たな取り組み、観光業界との連携など</p> <p>流域の諸政策行政縦割りの見える化</p> <p>地先の活動内容の把握・評価</p> <p>河口周辺の課題解決に向けた取り組み</p>

他部会との協働（特に海部会）・課題に対する川部会主導の行動